

教科書検討の観点から見た内容の特色

1. 教育基本法及び学校教育法との関連

教科書検討の観点	教科書の特色	関連する教科書のページ	
教育基本法 第一条	【第一号】 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	全教材を通して ・各巻の「教科書美術館」 ・各巻の「材料と用具のひきだし」	
	【第二号】 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	一人ひとりの価値を尊重し、その能力を伸ばし、創造性を培うことができるよう、図画工作科の目標を共有する「オリエンテーションページ」が設けられている。 将来の自分の生活や職業について想像してつくる題材や、つくることを職業としている人を紹介するページが設けられ、造形や美術と職業との関連が示されている。 また、題材ページや特設ページにおいて、工芸品や、家庭で作品を使っている様子、生活の中で出会う造形などが掲載され、造形や美術が生活と関連していることが示されている。	・各巻の「オリエンテーションページ」 1・2上 p.4-6、1・2下～5・6下 p.5-7 ・職業との関連 5・6下 p.54-55 「未来のわたし」、裏表紙「つくる人」 ・工芸品との関連 5・6下 p.28-29 「使って楽しい焼き物」、p.30-31 「生活を豊かにする形」、p.38-41 「受けつがれてきた形」「もようから見つけて」、p.59 「和紙でつごい!」 ・家庭で作品を使っている様子 3・4上 p.18-19 「空きようきのへんしん」 3・4下 p.34-35 「おもしろだんボールボックス」、p.38-39 「きって楽しいきつと使える」 5・6下 p.28-29 「使って楽しい焼き物」 ・生活の中で出会う造形 1・2上 p.7-9 「すきな かたちや いろ なあに」、各巻の「図工のみかた」、各巻の「教科書美術館」
	【第三号】 正義と責任、男女の平等、他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	協力して行うことで、満足感や達成感を得られるような題材が設定されている。また、互いの作品や活動について話し合い、それぞれの違いやよさを認め合う様子が多く掲載されている。 主体的に社会に参画する態度を養うために、「広がる図工」では、さまざまな地域の方とともに協働し、造形活動をする様子が掲載されている。	全教材を通して ・各巻の「広がる図工」
	【第四号】 生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うこと。	身の回りの自然に親しむ造形活動を通して、自然のよさを体感できる活動が掲載されている。 図画工作科を通して生命や環境について考えを深められるような題材や事例が掲載されている。	1・2上 p.16-17 「すなやつちと なかよし」、p.42-43 「ならべてならべて」 1・2下 p.6-7 「きせつを かんじて」、p.52-53 「草花のおしゃべり」 3・4上 p.24-29 「しぜんの色」、p.25-26 「土をかんじて」、p.27-28 「お気に入りの葉」、p.32-33 「ここがすみか」 3・4下 p.20-21 「組んで立ててつなぐくんぐん」木のえだで 5・6下 p.42-45 「自然を感じるすてきな場所で」 3・4上 p.52-53 「みんなとつながる」神戸っ子アートフェスティバル、SDGs アートウォール・プロジェクト 3・4下 p.32-33 「すてられそうなものがよみがえる」 5・6下 p.50-51 「あったらいいなプロジェクト」
	【第五号】 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。	日本の伝統文化に関わる題材や、伝統工芸、美術作品などが掲載され、実際に表現したり鑑賞したりすることでそのよさを深く理解できるように工夫されている。 諸外国の児童の作品や作家の作品、建築物などを取り上げ、それぞれの国による表現方法や風土の違い、共通点を理解し学ぶ中で、国際理解の大切さや平和の発展に寄与する態度が身に付くように工夫されている。	3・4下 p.22-23 「体の形」、p.24-25 「体でかんしょう」 5・6下 p.18-19 「墨と水から広がる世界」、p.28-29 「使って楽しい焼き物」、p.39-40 「もようから見つけて」 ・「外国の友だちの絵」 1・2上 p.24-25 「せんせい あのね」 1・2下 p.26-27 「こんな こと あったよ」 3・4上 p.20-21 「あの日あの時の気持ち」 3・4下 p.18-19 「わすれられない気持ち」 5・6上 p.24-25 「あの時の場所 わたしの思い」 5・6下 p.26-27 「わたしの大切な風景」 ・諸外国の作家作品・建築物 各巻の「教科書美術館」 各巻の「教科書美術館 ミニ」(3・4下 p.51、5・6上 p.11、5・6下 p.9、p.13、p.45) 3・4上 p.48-49 「絵を見て話そう」 5・6下 p.24-25 「この筆あと、どんな空？」 ※本書 p.51 も合わせて参照
学校教育法	学校教育法との関連	学校教育法に示された教育の目的および目標に即し、題材の設定や作品、写真の選択、文章表現などについて十分配慮されている。 特に、学校教育法第 30 条第 2 項に示された「基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うこと」について、資質・能力の三つの柱に基づく「学習のめあて」を全題材に設定するなど、重視されている。また、「ふりかえり」では学びに向かう力、人間性等について、関連する投げかけがなされている。	全教材を通して ・各巻の「教科書の使い方」における「学習のめあて」についての解説(1・2上 p.67、1・2下～5・6下 p.3) ・題材ページにおける「学習のめあて」及び「ふりかえり」

2. 学習指導要領との関連

教科書検討の観点	教科書の特色	関連する教科書のページ	
社会に開かれた 教育課程	各巻の「教科書の使い方」では、図画工作科の目標に基づく「学習のめあて」について説明し、「何をどのように学ぶのか」を児童や保護者、地域の方と共有できるように工夫されている。また、「保護者の方へ」では、図画工作科を学ぶ意義が伝えられている。 題材での活動や学びを家庭でも生かしたり、地域の施設などの展示を通して学校での学びを地域の方に伝える事例や、地域の方と協働して活動する事例が多数掲載され、図画工作科における社会との連携が例示されている。	・各巻の「教科書の使い方」(1・2上 p.67-68、1・2下～5・6下 p.3-4) ・「保護者の方へ」(1・2上 p.68、1・2下～5・6下 p.2) ・家庭で作品を使っている様子 3・4上 p.18-19 「空きようきのへんしん」 3・4下 p.34-35 「おもしろだんボールボックス」、p.38-39 「きって楽しいきつと使える」 5・6下 p.28-29 「使って楽しい焼き物」 ・地域と連携した活動例は、主に「広がる図工」に掲載 3・4上 p.52-53 「みんなとつながる」 3・4下 p.32-33 「すてられそうなものがよみがえる」 5・6上 p.36-37 「どんなことをどんな方法で」、p.52-53 「紙から生まれるすてきな明かり」、p.56-57 「美術館へ行こう」	
	全巻の題材において、表現と鑑賞が一体的に学習できるように配慮されている。表現の活動においてもお互いの作品を見合うなど、鑑賞している情景写真が掲載されている。 「学習の進め方」では、教科書を活用し、活動やめあてを確認し、表現と鑑賞を往還しながら教科の目標に沿って学習を進めていく流れを、イラストとともに分かりやすく示している。 造形的な見方・考え方を働かせながら学習できるように、紙面全体を通して、児童が対象や事象を造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすことができるように、図版やふきだしなどが配置されている。 題材ページや教科書美術館には「鑑賞のヒント」が示されており、造形的な見方・考え方を働かせながら、作品や活動を見ることができるよう工夫されている。 生活や社会の中の形や色など豊かに関わる資質・能力を育成するために、題材ページには「ふりかえり」が設定され、題材で学んだことが生活や社会とどう関わるのかを考えられるように工夫されている。また、1・2下、3・4下では、2年間を通した学びの振り返りページが設けられ、学習指導要領の学年の目標に合わせて、どのような力が身に付いたのかを確認することができるようになっている。5・6下には「図画工作での学びをふり返ってみよう」のページが設けられ、6年間の学びを振り返り、生活や人生にどう生かしていけるのか考えられるよう工夫されている。 生活や社会の中の形や色など豊かに関わる資質・能力を育成するために、題材での活動や学びを家庭でも生かしている様子や、造形を通して地域や社会とつながる活動などが紹介されている。	全教材を通して ・「学習の進め方」(1・2下～5・6下 p.3-4) 全教材を通して ・題材ページや教科書美術館における「鑑賞のヒント」 ・全ての題材ページにおける「ふりかえり」 ・2年間の学びを振り返るページ 1・2下 p.54 「どんな こと したのかな」 3・4下 p.54 「どんなことをためしたかな どんなことを見つけたかな」 ・6年間の学びを振り返るページ 5・6下 p.66-67 「図画工作での学びをふり返ってみよう」 ・学びを家庭で生かしている様子 1・2上 p.54-55 「すきまちゃんのスきな すきま」 1・2下 p.14-15 「でこぼこ はっけん!」 3・4上 p.18-19 「空きようきのへんしん」 3・4下 p.34-35 「おもしろだんボールボックス」、p.38-39 「きって楽しいきつと使える」 5・6下 p.28-29 「使って楽しい焼き物」 ・地域と連携した活動例は、主に「広がる図工」に掲載 3・4上 p.52-53 「みんなとつながる」 3・4下 p.32-33 「すてられそうなものがよみがえる」 5・6上 p.36-37 「どんなことをどんな方法で」、p.52-53 「紙から生まれるすてきな明かり」、p.56-57 「美術館へ行こう」	
教科の目標	全ての題材において、表現と鑑賞が一体的に学習できるように配慮されている。表現の活動においてもお互いの作品を見合うなど、鑑賞している情景写真が掲載されている。 「学習の進め方」では、教科書を活用し、活動やめあてを確認し、表現と鑑賞を往還しながら教科の目標に沿って学習を進めていく流れを、イラストとともに分かりやすく示している。 造形的な見方・考え方を働かせながら学習できるように、紙面全体を通して、児童が対象や事象を造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすことができるように、図版やふきだしなどが配置されている。 題材ページや教科書美術館には「鑑賞のヒント」が示されており、造形的な見方・考え方を働かせながら、作品や活動を見ることができるよう工夫されている。 生活や社会の中の形や色など豊かに関わる資質・能力を育成するために、題材ページには「ふりかえり」が設定され、題材で学んだことが生活や社会とどう関わるのかを考えられるように工夫されている。また、1・2下、3・4下では、2年間を通した学びの振り返りページが設けられ、学習指導要領の学年の目標に合わせて、どのような力が身に付いたのかを確認することができるようになっている。5・6下には「図画工作での学びをふり返ってみよう」のページが設けられ、6年間の学びを振り返り、生活や人生にどう生かしていけるのか考えられるよう工夫されている。 生活や社会の中の形や色など豊かに関わる資質・能力を育成するために、題材での活動や学びを家庭でも生かしている様子や、造形を通して地域や社会とつながる活動などが紹介されている。	全教材を通して ・「学習の進め方」(1・2下～5・6下 p.3-4) 全教材を通して ・題材ページや教科書美術館における「鑑賞のヒント」 ・全ての題材ページにおける「ふりかえり」 ・2年間の学びを振り返るページ 1・2下 p.54 「どんな こと したのかな」 3・4下 p.54 「どんなことをためしたかな どんなことを見つけたかな」 ・6年間の学びを振り返るページ 5・6下 p.66-67 「図画工作での学びをふり返ってみよう」 ・学びを家庭で生かしている様子 1・2上 p.54-55 「すきまちゃんのスきな すきま」 1・2下 p.14-15 「でこぼこ はっけん!」 3・4上 p.18-19 「空きようきのへんしん」 3・4下 p.34-35 「おもしろだんボールボックス」、p.38-39 「きって楽しいきつと使える」 5・6下 p.28-29 「使って楽しい焼き物」 ・地域と連携した活動例は、主に「広がる図工」に掲載 3・4上 p.52-53 「みんなとつながる」 3・4下 p.32-33 「すてられそうなものがよみがえる」 5・6上 p.36-37 「どんなことをどんな方法で」、p.52-53 「紙から生まれるすてきな明かり」、p.56-57 「美術館へ行こう」	
資質・能力の三つの柱	資質・能力の三つの柱	全ての題材に教科の目標に基づく「学習のめあて」を設け、資質・能力の三つの柱の育成が実現できるよう工夫されている。 児童が「自分の感覚や行為を通して」造形的な視点(知識)について理解できるよう、感覚や行為を大切に題材が扱われている。また、内容の取扱い(3)(共通事項)のAの指導に示された知識に関する指導事項に基づき、低・中・高学年と経験を重ねていけるよう、題材が配置されている。 「図工のみかた」では、身の回りにある形や色などを造形的な見方・考え方で捉えることを促し、知識の習得につなげられるよう工夫されている。 「教科書美術館」では、学年に応じたテーマを設定し美術作品などを掲載しており、これらを鑑賞することを通して各学年の(共通事項)(知識)に気付けるよう工夫されている。 同じ用具を繰り返し使うことで用具の扱いに慣れるとともに、確実に技能を積み上げていけるよう題材配列が配慮されている。	全ての題材ページにおける「学習のめあて」  全教材を通して ・各巻の「図工のみかた」 ・各巻の「教科書美術館」 ・例1：はさみ 1・2上 p.14-15 「ちよきちよき かざり」 1・2下 p.32-33 「はさみの あーと」 ・例2：のこぎり 3・4下 p.30-31 「のこぎりギョギョ」 5・6下 p.32-33 「1まいの板から」
	知識及び技能	児童が「自分の感覚や行為を通して」造形的な視点(知識)について理解できるよう、感覚や行為を大切に題材が扱われている。また、内容の取扱い(3)(共通事項)のAの指導に示された知識に関する指導事項に基づき、低・中・高学年と経験を重ねていけるよう、題材が配置されている。 「図工のみかた」では、身の回りにある形や色などを造形的な見方・考え方で捉えることを促し、知識の習得につなげられるよう工夫されている。 「教科書美術館」では、学年に応じたテーマを設定し美術作品などを掲載しており、これらを鑑賞することを通して各学年の(共通事項)(知識)に気付けるよう工夫されている。 同じ用具を繰り返し使うことで用具の扱いに慣れるとともに、確実に技能を積み上げていけるよう題材配列が配慮されている。	全教材を通して ・各巻の「図工のみかた」 ・各巻の「教科書美術館」 ・例1：はさみ 1・2上 p.14-15 「ちよきちよき かざり」 1・2下 p.32-33 「はさみの あーと」 ・例2：のこぎり 3・4下 p.30-31 「のこぎりギョギョ」 5・6下 p.32-33 「1まいの板から」 ・題材ページにおける「特に大切なめあてのヒント(表現のヒント)」「鑑賞のヒント」を示すことで、児童が造形的な見方・考え方を働かせながら活動できるよう促し、知識や技能の習得・活用を助ける工夫がされている。  ・各巻の「材料と用具のひきだし」
	技能の基礎を支え、児童が自分の思いをもとに活動を充実させることができるように、材料や用具の取り扱いについて「材料と用具のひきだし」として各巻末9ページでまとめ、写真やイラストで丁寧に説明されている。	・各巻の「材料と用具のひきだし」	

思考力、判断力、表現力等	題材ページに「特に大切なめあてのヒント（表現のヒント）」を示すことで、児童が発想を広げ、思考力、判断力、表現力等を伸ばしていけるよう工夫されている。	・題材ページにおける「特に大切なめあてのヒント（表現のヒント）」及び「鑑賞のヒント」
	題材ページに「鑑賞のヒント」を示すことで、友だちの作品などを鑑賞しながら活動を進められるよう促し、思考力、判断力、表現力等を伸ばしていけるよう工夫されている。	・題材ページにおける「鑑賞のヒント」
	題材ページには多様な児童作品が掲載されており、作品を鑑賞したり、発想や構想を広げたりできるよう工夫されている。	全ての題材ページで
	3・4下「ひらめきのタネ」にはさまざまな発想の方法が示されており、児童が自ら思考力、判断力、表現力等を発揮できるように工夫されている。	3・4下 p.16-17「ひらめきのタネ」
	各巻の「教科書美術館」や「教科書美術館ミニ」には、作家作品や伝統文化、工芸品など多様な美術作品が大きな図版で掲載されており、鑑賞することを通してよさや美しさを感じ取ったり考えたりできるよう工夫されている。	・各巻の「教科書美術館」 ・各巻の「教科書美術館ミニ」(3・4下 p.51、5・6上 p.11、p.45、p.51、5・6下 p.9、p.13、p.19、p.29、p.45、p.47)
高学年の絵の題材では、どの児童も発想を広げられるように、表したいことを考えるための視点やキーワード、活動例などが具体的に示されている。	5・6上 p.8-11「心のもよう」、p.24-25「あの時の場所わたしの思い」、p.32-33「言葉から思いを広げて」 5・6下 p.10-13「音の絵」、p.26-27「わたしの大切な風景」、p.34-35「言葉から想像を広げて」	
絵や工作の題材ページでは、ワークシートやアイデアスケッチを掲載することで、児童がどのように発想や構想を広げていけばよいか考える際のヒントになるよう工夫されている。	3・4下 p.34-35「おもしろだんボールボックス」 5・6上 p.65「タブレットたん末を活用する」では、タブレット端末を使ってアイデアや計画をまとめる方法について提案しています。 5・6下 p.10-13「音の絵」、p.28-29「使って楽しい焼き物」、p.32-33「1まいの板から」、p.50-51「あったらいいなプロジェクト」	
どの題材においても児童が「思いや考えを基に構想し、意味や価値を創造していく」ことができるように、多様な発想のきっかけをもつ題材が配列されている。	全教材を通して	
児童が「創造的に発想や構想」をすることができるように、その手がかりとなる多様な情景写真や参考作品が掲載されている。また、より発想や構想を広げ深めることができるように、作品コメントや製作過程のワークシートなども掲載されている。	全教材を通して	
「作品などに対する自分の見方や感じ方を深め」られるように、鑑賞する活動に関しては、身近なものの形や、美術作品などに関心や親しみをもち、そのよさや美しさなどを感じ取ったり、味わったりする題材が掲載されている。	全教材を通して	
学びに向かう力、人間性等	オリエンテーションページでは、図画工作科ではどんなことを学ぶのか児童に分かりやすい言葉と活動例で示しており、図画工作科で育成を目指す学びに向かう力、人間性等を養えるよう配慮されている。	・各巻のオリエンテーションページ 1・2上 p.4-6、1・2下 ～ 5・6下 p.5-7
	学習指導要領の趣旨を踏まえ、「学びに向かう力、人間性等」のうち「主体的に学習に取り組む態度」については、「学習のめあて」においてわかりやすい言葉で示され、児童が主体的に学ぶことができるよう工夫されている。	・全ての題材ページにおける「学習のめあて」 
	「学びに向かう力、人間性等」のうち、「感性や思いやり」など観点別評価になじまない部分については、「ふりかえり」に活動を通して感じたり考えたりしてほしいこととして例示し、児童一人ひとりの気付きを大切に、学びを人生や社会に生かそうとすることができるよう工夫されている。	・全ての題材ページにおける「ふりかえり」 
主体的な学び	5・6下「図画工作での学びをふり返ってみよう」では、6年間の学びを振り返って身に付いた力を自覚するとともに、中学校でも学び続ける気持ちをもてるよう工夫されている。	5・6下 p.66-67「図画工作での学びをふり返ってみよう」
	各巻の「教科書の使い方」「学習の進め方」及びオリエンテーションページでは、図画工作科では何をどのように学ぶのかについて教科書の使い方とともに示し、児童が学ぶことに興味・関心をもち、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。	・各巻の「教科書の使い方」「学習の進め方」及びオリエンテーションページ 1・2上 p.67-68、p.4-6、1・2下 ～ 5・6下 p.3-7
	題材は、多様な児童が興味・関心をもつことができるように、さまざまな発想のきっかけから活動に取り組めるものになっている。	全教材を通して
	実際の授業を撮影した写真が用いられ、児童が親近感をもち、写真の豊かな表情に触発されながら、活動に興味・関心をもつことができるよう工夫されている。また、題材名や導入の言葉、題材名のデザイン上の工夫、図版のサイズに大小の動きをもたせた構成などによって、児童がより興味・関心をもって活動ができるよう紙面作成されている。	全教材を通して
	各題材に「学習のめあて」が示されており、児童が見通しをもって学習を進められるよう配慮されている。また、活動の終わりには「ふりかえり」を促す問いかけがあり、身に付いた力を児童が自覚するとともに、学びを次の活動にもつないでいけるよう工夫されている。	・題材ページにおける「学習のめあて」及び「ふりかえり」
対話的な学び	児童が考えを伝え合ったり、友だちと相談したりしながら協働して造形活動を行う様子が紹介され、対話を通して思考力を働かせ、学びを深めることができるように工夫されている。	全教材を通して
	「ともだちのさくひんをみてはなそう」、「友だちと作品を見て話そう」では、作品や活動を互いに見合い、感じたことや考えたことを伝え合う活動を促すことで、対話的な学びにつながるよう工夫されている。	1・2上 p.56「ともだちのさくひんをみてはなそう」 3・4上 p.54、5・6上 p.58「友だちと作品を見て話そう」
	「広がる図工」では、児童が保護者の方や地域の方、作家など多様な人々と出会い協働して活動している様子が掲載され、対話をしながら考えを広げていくことを促す工夫がされている。	・各巻の「広がる図工」
	5・6下裏表紙の「つくる人」や、各巻の「材料と用具のひきだし」QRコンテンツでは、さまざまな分野で活躍している作家やアーティストの言葉を、作品や制作の過程とともに紹介することで、友だちなどの身近な人だけでなく、専門家の考え方も手がかりにしながら考えることを促す工夫をしている。	・「つくる人」(5・6下 裏表紙) ・「材料と用具のひきだし」QRコンテンツ(3・4上 p.55、3・4下 p.55、5・6上 p.59、5・6下 p.57)

深い学び	深い学びの鍵となる「造形的な見方・考え方」を働かせて、児童が自ら表現したいことやつくりたいことを見付けられるように、題材の設定が十分に配慮されている。	全教材を通して
	「ずがこうさくがはじまるよ」、「図画工作をはじめよう」では、「造形的な見方・考え方」が分かりやすい言葉で示されている。	・各巻の「ずがこうさくがはじまるよ」、「図画工作をはじめよう」 1・2上 p.4-6 / 1・2下 ～ 5・6下 p.5-7)
	教科書巻頭の「学習の進め方」において、児童が自分で考える場面、友だちと関わる場面、教師が声かけをする場面、振り返りの場面などを、題材の活動の中で適宜設けることを示し、深い学びにつながるよう配慮している。	・各巻の「学習の進め方」(1・2下 ～ 5・6下 p.3-4)
	題材ページの「特に大切なめあてのヒント（表現のヒント）」と「鑑賞のヒント」には、児童が造形的な見方・考え方を働かせることを促す投げかけが示されており、深い学びにつながるよう工夫されている。	・題材ページにおける「特に大切なめあてのヒント（表現のヒント）」及び「鑑賞のヒント」
	「図工のみかた」では、身の回りにある形や色などを「造形的な見方・考え方」で捉え考えることを促し、題材の活動においても「造形的な見方・考え方」を働かせながら活動し、深い学びにつなげられるよう配慮されている。	・各巻の「図工のみかた」
個別最適な学びと協働的な学び	題材ページの「特に大切なめあてのヒント（表現のヒント）」は、児童が発想を広げたり構想を深めたりできるよう促す声かけの例が示されており、深い学びにつながるよう工夫されている。	・題材ページにおける「特に大切なめあてのヒント（表現のヒント）」及び「鑑賞のヒント」
	オリエンテーションページでは、図工の授業での活動や作品などを記録しておく「図工ノート」をつくるのが提案されている。児童が自ら学習記録を残したり振り返ったりしながら学習の進め方を考えられるよう促し、指導の個別化を図れるよう工夫されている。	3・4上 p.6-7「かいて見つけるわたしのすきなもの」 5・6下 p.6-7「絵の具スケッチ」
	題材ページには多様な作品や活動例が紹介されており、使われている材料などもさまざまである。児童の発想の幅を狭めず、個々の興味・関心に応じて表したいことを見付けられるような紙面になっており、学習の個性化を図れるよう工夫されている。	全ての題材ページで
言語活動の充実	題材ページには、表現や鑑賞の活動を通して友だちと話したり協力したりする様子が多く掲載されており、友だちとの関わりが自然と生まれ、協働的な学びが実現できるよう配慮されている。	全ての題材ページで
	鑑賞の題材や「アート・カードを楽しもう」では、美術作品などの鑑賞を通して、自分とは異なる他者の感じ方や見方に気付き、協働的な学びが実現できるよう工夫されている。	・各巻の「アート・カードを楽しもう」
	教科書全体を通して、身近な友だち、家庭や学校や地域の方、高齢者、障がいのある方、外国籍の児童や海外の作家など、さまざまな人々が登場する。図画工作科の学習を通して、同じ社会の一員である多様な他者と出会い、互いの価値観を尊重し合いながら生きることの大切さに気付き、「協働的な学び」が実現できるよう配慮されている。	全教材を通して
	発想や構想、鑑賞などさまざまな場面で児童がコミュニケーションを取りながら造形活動を行っている様子が紹介されている。	全教材を通して
	児童の作品コメントや、児童のワークシートが掲載され、形や色、言葉で思いを伝え合う活動が促されている。	全教材を通して
特別支援教育への配慮	特に鑑賞の題材においては、児童が美術作品などを見て感じたことなどを友だち同士で伝え合っている様子や、ふせんに書いて共有している様子など、複数の鑑賞の方法を示すことで、言語活動を充実させられるよう配慮されている。	・言語活動の例を示している鑑賞の題材 3・4上 p.48-49「絵を見て話そう」 3・4下 p.5-7「見つけよう 感じよう 形と色のいい感じ」 p.24-25「体でかんしょう」 5・6上 p.7「わたしとひびき合う」 5・6下 p.24-25「この筆あと、どんな空？」
	「ともだちのさくひんをみてはなそう」、「友だちと作品を見て話そう」では、作品や活動を互いに見合い、感じたことや考えたことを伝え合う活動を促すことで、言語活動が充実するよう工夫されている。	1・2上 p.56「ともだちのさくひんをみてはなそう」 3・4上 p.54、5・6上 p.58「友だちと作品を見て話そう」
	多様な表現を認められるように、参考作品における支持体の大きさ、形、素材はさまざまなものが取り上げられている。また、障がいの有無にかかわらず児童が題材に主体的に取り組めるように、さまざまな発想のきっかけをもつ題材が設定されている。また、一つの題材の中でいくつかの実践パターンが示され、児童の実態に応じて材料の種類や数を絞るなど実践方法を変えられるよう配慮されている。また教科書とは別に拡大教科書を製作したり、文字の拡大や音声の読み上げなど、学習支援のための機能を備えたデジタル教科書を製作したりする体制を整えている。	全教材を通して ※デジタル教科書については本書 p.42-43 を参照
	手で触って鑑賞する作品や鑑賞の様子を掲載することで、視覚以外の鑑賞方法を知るとともに、視覚障がいについて考えられるよう配慮されている。	5・6上 p.28-29「ふれて伝えるストーリー」 p.36-37「どんなことをどんな方法で」 5・6下 p.36-37「水の流れ 水の形」
全ての児童が見やすく読みやすいよう、UDフォントを使用し、文字の大きさを学年ごとに調整するなど工夫されている。	全教材を通して	
色覚特性の有無にかかわらず、全ての児童が等しく学べるよう、コントラストや文字の背景色など、カラーユニバーサルデザインに配慮して編集されている。題材名は見やすく、かつ楽しく取り組めるようデザインされている。	全教材を通して	

「A 表現」及び「B 鑑賞」の関連	題材ページは、ページ左上に「絵・かん賞」のように分野を示すことで、表現と鑑賞を関連付けて学習できるよう配慮されている。また、「学習のめあて」にも、鑑賞のめあて（B 鑑賞の活動を通して育成する思考力、判断力、表現力等）を示している。	全ての題材ページで
	題材ページには、「特に大切なめあてのヒント（表現のヒント）」と「鑑賞のヒント」が示されており、表現と鑑賞を往還しながら学習できるよう配慮されている。	全ての題材ページで
	題材の内容と関連の深い美術作品などが掲載された「教科書美術館」が、題材ページと連続した構成になっており、表現と鑑賞を関連付けて学習できるよう工夫されている。	<ul style="list-style-type: none"> 題材ページと関連付けて活用できる「教科書美術館」 <ul style="list-style-type: none"> 1・2下 p.42-45・47「だんボールに入ってみると!」「からだで見つけるかたち・いろ」「つないでつるして」 3・4上 p.24-29「しぜんの色」「土をかんじて」「お気に入りの葉」 3・4下 p.22-25「体の形」「体でかんしょう」、p.40-45「光とかけから生まれる形」、「光から生まれる形・色」、「光のさしこむ絵」 5・6上 p.22-25「身近なものを見つめて」「あの時あの場所わたしの思い」 5・6下 p.38-41「受けつがれてきた形」「もようから見つけて」
	身の回りにある造形や美術作品について、受動的に見るだけでなく、能動的に絵に表すなどの表現の活動を取り入れることで、表現と鑑賞を往還しながら学びを深められるような題材が設定されている。	<ul style="list-style-type: none"> 3・4上 p.24-29「しぜんの色」「土をかんじて」「お気に入りの葉」 5・6下 p.24-25「この筆あと、どんな空?」
〔共通事項〕	教科書全体を通して取り扱われている。(1) アの形や色などに関する事項については、児童が感覚や行為を通して「形や色などを捉える」ことができるように、全身の感覚を使って材料や用具に触れる題材が設定され、形や色に主体的に関わることを促すような児童の情景写真が多く掲載されている。また(1) イのイメージに関する事項については、児童が題材に出会いイメージを膨らませることができるように、各題材の導入の言葉は形や色からイメージを喚起するような文言になっている。	全教材を通して
	題材ページに「特に大切なめあてのヒント（表現のヒント）」及び「鑑賞のヒント」を示すことで、活動の中で出会うさまざまな形や色などを捉えながら活動できるよう工夫されている。	<ul style="list-style-type: none"> 題材ページにおける「特に大切なめあてのヒント（表現のヒント）」及び「鑑賞のヒント」
共同してつくりだす活動	友だちと協力して活動することを通して、さまざまな発想や構想、アイデア、表し方などがあることに互いに気付けるような題材が設定されている。	<ul style="list-style-type: none"> 共同してつくりだす活動 <ul style="list-style-type: none"> 3・4上 p.50-51「ねん土マイタウン」 3・4下 p.15「コロコロガール」みんなでコロコロコースター、p.50-51「ようこそ！ ゆめのまちへ」 5・6上 p.14-15「あんなところがこんなところに」、p.38-39「笑顔が生まれるしかけ」、p.42-43「光と場所のハーモニー」 5・6下 p.8-9「ここから見ると」、p.14-15「糸から生まれるわたしの空間」、p.42-45「自然を感じるすてきな場所で」、p.50-51「あったらいいなプロジェクト」
	高学年では、数名でグループをつくって活動することで学びが深まるような題材が多く設定されている。グループの中でイメージや目的を共有し、互いの発想やアイデア、見方や感じ方を伝え合い相互に影響し合いながら活動できるよう配慮されている。	<ul style="list-style-type: none"> 主に、各巻の「広がる図工」で紹介 <ul style="list-style-type: none"> 3・4上 p.53 SDGs アートウォール・プロジェクト 5・6上 p.36 アンブレラスカイ 5・6下 p.49 平和の祈りキッズゲルニカ in ながさき～国際子ども平和壁画展～
版に表す経験・土を焼成して表す経験	各巻に、児童の発達の段階に応じて、版の特性を生かして表す題材が設定されている。また、版の特徴や表し方については「材料と用具のひきだし」に示し、児童がその特性を十分に理解しながら活動を行えるように配慮されている。	<ul style="list-style-type: none"> 版に表す題材 <ul style="list-style-type: none"> 1・2上 p.52-53「うつした かたちから」 1・2下 p.50-51「たのしく うつして」 3・4上 p.44-45「いろいろうつして」 3・4下 p.48-49「ほってすって見つけて」 5・6上 p.48-49「ほり進めて刷り重ねて」 5・6下 p.46-47「版で広がるわたしの思い」 版について掲載している「材料と用具のひきだし」 <ul style="list-style-type: none"> 1・2上 p.64「おしてうつす」「こすりだしてうつす」 1・2下 p.62-63「かたがみでうつす」「かみはんでうつす」 3・4下 p.62-63「木はん画に表す～ほる～」、「木はん画に表す～する～」 5・6上 p.65「一ばん多色木はん画に表す」、p.66-67「ほり進み木はん画に表す」 5・6下 p.65「版で広がるさまざまな表現」
	各巻の粘土を扱う題材の中に、焼成して表す展開や作品が紹介されている。また、「材料と用具のひきだし」において焼成の方法やその効果などを示し、児童が焼成の特性を十分に理解しながら活動を行うことができるように配慮されている。	<ul style="list-style-type: none"> 焼成して表す展開や作品を紹介しているページ <ul style="list-style-type: none"> 1・2上 p.34-35「いっしょにおさんぽ」 1・2下 p.36-37「おもいでをかたちに」 3・4上 p.8-9「切ってかき出しくっつけて」 3・4下 p.10-11「ねん土の板を立ち上げて」 5・6下 p.28-29「使って楽しい焼き物」、p.36-37「水の流れ 水の形」 焼成に関連する内容を掲載している「材料と用具のひきだし」 <ul style="list-style-type: none"> 1・2上 p.65「ねんどでつくる」 1・2下 p.57「土ねん土をやく」 3・4上 p.62「かきべら・切り糸で形をかえる」 3・4下 p.61「ねん土の板をつくる」 5・6下 p.60-61「ねん土で焼き物をつくる」

3. カリキュラム・マネジメントへの対応

教科書検討の観点	教科書の特徴	関連する教科書のページ
他教科等との関連	<p>題材ページや特設ページに「つながる学び」を示し、関連する他教科等の学習内容と結び付けながら教科等横断的な学習ができるよう工夫している。</p> <p>低学年においては、生活科と関連のある題材・事例が多く掲載されている。</p> <p>総合的な学習の時間や特別活動と、図画工作科の活動を関連させた事例が多く掲載されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「つながる学び」については、本書の p.44-45 を参照 生活科と関連のある題材など <ul style="list-style-type: none"> 1・2上 p.12-13「ねんどで ごちそう なにつくろう」、p.26-29「いっしょにあそぼう ばくばっくん」、p.36「たいせつボックス」、p.37「わくわくおはなしすごろく」、p.42-43「ならべてならべて」、p.44-45「スルスルビューン」 1・2下 p.18-19「わっかでへんしん」、p.28-29「どんなうごきに見えるかな」、p.48-49「とびだせびよーん」、p.52-53「草花のおしゃべり」、裏表紙「つながる ずこう」 総合的な学習の時間や特別活動と関連のあるページ <ul style="list-style-type: none"> 3・4上 p.43「顔を出したらなんだかワクワク」、p.53「みんなとつながる」SDGs アートウォール・プロジェクト 5・6上 p.36「どんなことをどんな方法で」アンブレラスカイ、駅のこう内での展示 5・6下 p.50-51「あったらいいなプロジェクト」、p.54-55「未来のわたし」
道徳教育との関連	<p>紙面全体を通して、安全への配慮、自分の特徴に気付きよい所を伸ばす、友だちと理解し合う、父母や祖父母、先生や学校の人々を敬愛する、美しいものに感動する心をもつ、郷土の伝統文化を大切に愛する、わが国の伝統文化を大切にする、などの項目と強く関連している。</p> <p>また、全ての題材は、つくりだす喜びを味わうことができるよう配慮され、美しいものや崇高なものを尊重する心につながるものになっている。</p> <p>学習内容が特に道徳と関連の深いページについては、「つながる学び」に「道徳」とし、道徳の内容項目との関連を意識しながら学習できるよう配慮されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全教材を通して 全教材を通して 「つながる学び」については、本書の p.44-45 を参照。
外国語活動との関連	3・4 下裏表紙「つながる図工」では、作品を通して自分の気持ちや表したかったことを英語で伝える活動例が示されており、外国語活動との関連が図れるよう配慮されている。	3・4下 裏表紙「作品でつたえよう」
幼児期教育との接続	<p>1・2 上巻頭に「どんな こと すき だった?」のページを設けることで、幼児期の造形活動が図画工作科の学習内容につながっていることを示すとともに、1年生がこれまでの知識や経験を生かしながら小学校での学習に入っていけるよう配慮されている。</p> <p>1・2 上冒頭の「ずこうの スタート」では、幼児期の活動内容に近い題材や、入学当初の児童の特性や発達段階に適した題材を設定しており、児童がスムーズに小学校の学習へ入っていけるよう配慮されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1・2上 p.2-3「どんな こと すき だった?」 1・2上 p.2-17「ずこうの スタート」(p.67「もくじ」に明記)かんしょうスタート「すきな かたちやいろ なあに」えスタート「どんどん かくのほたのしいな」りったいスタート「ねんどで ごちそう なにつくろう」こうさくスタート「ちよきちよきざざり」ぞうけいあそびスタート「すなやつちと なかよし」
中学校教育との接続	<p>中学校との接続ページが設定され、図画工作科での経験を振り返りながら、何を学習してきたのか考え、中学校への学びのつながりを意識することができるよう工夫されている。また、中学校の美術科や技術科との関連に配慮したページが設けられている。</p> <p>5・6 下「図画工作での学びをふり返ってみよう」では、小学校6年間の図画工作科での学習を振り返り、身に付いた力を児童が自覚できるよう促すとともに、中学校美術科での学びにつなげられるよう配慮されている。</p> <p>5・6 下では、中学校美術科や技術科と関連がある題材等が掲載されており、中学校教育との接続に配慮されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 5・6下 p.66-67「図画工作での学びをふり返ってみよう」p.18-19「墨と水から広がる世界」、p.24-25「この筆あと、どんな空?」、p.28-29「使って楽しい焼き物」、p.32-33「1まいの板から」、p.39-40「もようから見つけて」 5・6下 p.66-67「図画工作での学びをふり返ってみよう」
キャリア教育	5・6 下「未来のわたし」では、未来の自分の姿を想像しながらつくる活動を通して、自分のありたい姿や自分らしさについて考えたり、社会や職業について考えられるよう配慮されている。	5・6下 p.54-55「未来のわたし」
	5・6 下「図画工作での学びをふり返ってみよう」では、6年間の学びを振り返り、中学校での学びにつなげられるよう意識することを促しており、自分の将来や、生涯を通じて学び続けることについて考えられるよう配慮されている。	<ul style="list-style-type: none"> 「つくる人」(5・6下 裏表紙) 「材料と用具のひきだし」QR コンテンツ (3・4上 p.55、3・4下 p.55、5・6上 p.59、5・6下 p.57)

4. デジタル・ICT活用

別冊「ICT活用でもっと深い学びを！」も合わせてご参照ください。



教科書検討の観点	教科書の特徴	関連する教科書のページ
情報活用能力の育成	タブレット端末の活用が有効であると考えられる題材については タブレットアイコン を示し、タブレット端末の機能を生かしながら、発想を広げたり鑑賞を深めたりできるよう配慮されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットアイコンを示しているページ <ul style="list-style-type: none"> 1・2上 p.54-55 「すきまちゃんのすきなすきま」 1・2下 p.52-53 「草花のおしゃべり」 3・4上 p.32-33 「ここがすみか」、p.43 「顔を出したらなんだかわくわく」、p.48-49 「絵を見て話そう」 3・4下 p.8-9 「まどをのぞいて」、p.14-15 「コロコロガーレ」、p.24-25 「体でかんしょう」、p.40-41 「光とかげから生まれる形」、p.52-53 「写真をとったら見えてきた」 5・6上 p.12-13 「形に命をふきこんで」、p.14-15 「あんなところがこんなところに」、p.30-31 「水から発見 ここきれい!」、p.38-39 「笑顔が生まれるしかけ」、p.42-43 「光と場所のハーモニー」、p.44-45 「ミラクル! ミラーワールド」、p.54-55 「ICTでチャレンジ」 5・6下 p.8-9 「ここから見ると」、p.10-13 「音の絵」、p.14-15 「糸から生まれるわたしの空間」、p.16-17 「固まった形から」、p.24-25 「この筆あと、どんな空?」、p.42-45 「自然を感じるすてきな場所で」、p.50-51 「あったらいいなプロジェクト」
	「 材料と用具のひきだし 」で、題材の活動におけるタブレット端末の活用方法などを示すことで、タブレット端末をさまざまな場面で活用できるよう配慮されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・「材料と用具のひきだし」タブレット端末の活用に関するページ <ul style="list-style-type: none"> 3・4上 p.63 「しゃしんをどうに生かす」 5・6上 p.65 「タブレットたん末を活用する」 5・6下 p.65 「ICTで広がる美術かん賞」
	「 材料と用具のひきだし 」で、インターネットを使用する際の注意点や著作権などを取り上げることで、児童がタブレット端末などの情報機器を利用する際に、情報モラルを意識しながら活動できるよう配慮している。	<ul style="list-style-type: none"> ・「材料と用具のひきだし」情報モラルに関するページ <ul style="list-style-type: none"> 3・4上 p.63 「インターネットを活用する」 5・6上 p.65 「著作権」
QRコンテンツ	「 材料と用具のひきだし 」では、二次元コードから用具の使い方や技法の動画を見ることができ、動画で確認しながら学習を進められるよう配慮されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・各巻の「材料と用具のひきだし」
	二次元コードから、用具の使い方や仕組みのつくり方などを動画で確認することができ、題材の活動の中で児童が自分で確認しながら学習を進めることができるよう工夫されている。	QRコンテンツ一覧は別冊「ICT活用でもっと深い学びを！」p.14-17を参照。
	二次元コードから、作家インタビューの動画やさまざまな資料映像を見ることができ、児童が自らの関心を広げながら学習を進展させていくことができるよう工夫されている。	QRコンテンツ一覧は別冊「ICT活用でもっと深い学びを！」p.14-17を参照。
	KOMAKOMA×日文、KIRITORIなどのアプリは、児童の興味・関心を引き出し、楽しみながら表現したいことを見付けたり試行錯誤したりできる内容になっており、主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・KOMAKOMA×日文 (5・6上 p.12-13 「形に命をふきこんで」) ・KIRITORI (5・6上 p.55 「もようTシャツ」)
	アート・カードアプリ では、児童が美術作品に親しみをもち、楽しみながら学習できるよう工夫されている。また、主に鑑賞の題材では、教科書に掲載している美術作品を大きく見られる画像資料を使用することができ、鑑賞活動を深めることができるよう工夫されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・アート・カードアプリ (各巻の「アート・カードを楽しもう」) ・二次元コードから美術作品などを大きく見ることができページ <ul style="list-style-type: none"> 3・4上 p.48-49 「絵を見て話そう」 3・4下 p.5-7 「見つけよう 感じよう 形と色のいい感じ」、p.22-23 「体の形」、p.24-25 「体でかんしょう」 5・6上 p.5-7 「感じたことを伝え合う」、p.22-23 「身近なものを見つめて」 5・6下 p.24-25 「この筆あと、どんな空?」、p.38・41 「受けつがれてきた形」、p.39-40 「もようから見つけて」
	二次元コードから、 みんなの図工ギャラリー で公開されている児童作品を見ることができ、児童が表現したいことを見付けたり発想を広げたりするときに参考にできるよう配慮されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなの図工ギャラリーは、各題材ページの二次元コードから見ることができます。
プログラミング・STEAM教育	題材の活動の中で、プログラミングツールを使うことで発想や表現の幅を広げる活動例を紹介している。プログラミング的思考を育むことができるよう配慮している。	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミングツールを使った活動例 <ul style="list-style-type: none"> 3・4下 p.15 「コロコロガーレ」 5・6上 p.43 「光と場所のハーモニー」 p.54 「プログラミングで表そう」 裏表紙 「プログラミングで空間を生み出す」 5・6下 p.51 「あったらいいなプロジェクト」 ・プログラミングツールを使った活動は、3・4下～5・6下 p.2 「もくじ」の「プログラミング」に示しています。
個別最適な学びと協働的な学び	QRコンテンツでは、用具の使い方や仕組みのつくり方の動画があり、児童が必要に応じて自分で確認したり、教師が見せて指導に生かすことができる。基礎的・基本的な知識・技能の習得を促すとともに、「指導の個別化」を図れるよう配慮されている。	QRコンテンツ一覧は別冊「ICT活用でもっと深い学びを！」p.14-17を参照。
※ICT活用以外の内容は、本書p.55	QRコンテンツでは、 みんなの図工ギャラリー からさまざまな児童作品を見ることができ、児童が自分の興味・関心に応じて作品を参照したり、集めた情報を発想・構想に生かして学びを深めたりできるよう工夫されており、「学習の個性化」につながるよう配慮されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなの図工ギャラリーは、各題材ページの二次元コードから見ることができます。
	教科書では、ICTを活用して美術作品などを鑑賞し、感じたことや考えたことを互いに伝え合う題材を設定している。自分とは異なる価値観をもつ他者と出会い、尊重し合う「協働的な学び」ができるよう配慮されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用して美術作品を鑑賞するページ <ul style="list-style-type: none"> 3・4上 p.48-49 「絵を見て話そう」 3・4下 p.5-7 「見つけよう 感じよう 形と色のいい感じ」、p.22-23 「体の形」、p.24-25 「体でかんしょう」 5・6上 p.5-7 「感じたことを伝え合う」、p.22-23 「身近なものを見つめて」 5・6下 p.24-25 「この筆あと、どんな空?」、p.38・41 「受けつがれてきた形」、p.39-40 「もようから見つけて」
	QRコンテンツでは、作家の制作活動の様子やインタビュー動画を見ることができ、学校の枠にとどまらず多様な他者の考え方や価値観と出会い、「協働的な学び」が実現できるよう配慮されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・「材料と用具のひきだし」(3・4上 p.55、3・4下 p.55、5・6上 p.59、5・6下 p.57) ・3・4下 p.5-7 「見つけよう 感じよう 形と色のいい感じ」 ・5・6上 p.5-7 「感じたことを伝え合う」、p.28-29 「ふれて伝えるストーリー」 ・5・6下 裏表紙 「つながる図工」

5. 持続可能な社会の実現に向けて (SDGs・ESDとの関わり)

別冊「図画工作でできる! SDGs」も合わせてご参照ください。



教科書検討の観点	教科書の特徴	関連する教科書のページ
SDGs・ESDとの関連	児童が、持続可能な社会の創り手として、現代的な諸課題について図画工作科との関わりを通して考えを深められるよう、環境、地域文化・伝統文化、多文化共生、国際理解、平和・人権、防災・安全に関わる題材や事例が取り上げられている。	別冊「図画工作でできる! SDGs」を合わせてご参照ください。
	持続可能な開発目標 (SDGs) について、いろいろな国の人が見て分かるピクトグラムになっているという観点から取り上げられ、多文化共生について考えながら学べるよう配慮されている。	5・6上 p.37 「どんなことをどんな方法で」記号やマークでしめしたよ
環境教育	題材ページ内の「 かたづけ 」において、余った材料を保管しておくなどを促し、日々の授業を通して限りある資源を大切にしようとする気持ちを育てられるよう配慮されている。	1・2下 p.21 「しんぶんしと なかよし」など、全題材を通して
	自然がもつ美しさや面白さへの気付きを促す題材や特設ページが設けられており、身の回りの自然や環境を大切にしようとする気持ちを育てられるよう配慮されている。	1・2上 p.16-17 「すなやつちと なかよし」、p.42-43 「ならべてならべて」 1・2下 p.6-7 「きせつを かんじて」、p.52-53 「草花のおしゃべり」 3・4上 p.24・29 「しぜんの色」、p.25-26 「土をかんじて」、p.27-28 「お気に入りの葉」、p.32-33 「ここがすみか」 3・4下 p.21 「組んで立ててつなぐぐん」木のえだで 5・6下 p.42-45 「自然を感じるすてきな場所で」
	環境や安全などの社会問題について考えながら、未来の学校や町を想像してつくる題材が掲載され、環境問題への関心を高められるよう配慮されている。	5・6下 p.50-51 「あったらいいなプロジェクト」
人権尊重・多様性理解	家族や高齢者、学校の先生、地域の方、障がいのある方などに対して、日頃から優しい気持ちで向き合い、思いやりをもてるように、題材を通して、心豊かで、慈愛のある人間性が育まれるように配慮されている。	1・2下 裏表紙 「つながる ずこう」 3・4上 p.52-53 「みんなとつながる」 3・4下 p.46-47 「幸せを運ぶカード」 5・6上 p.28-29 「ふれて伝えるストーリー」、p.36-37 「どんなことをどんな方法で」、p.56-57 「美術館へ行こう」
	自分たちがつくった作品や美術作品などの鑑賞を通して対話する場面を多く設定することで、他者との感じ方や考え方の違いに気付くとともに、多様な見方や価値観を尊重する気持ちを育てられるよう配慮されている。	全教材を通して
	図画工作科の活動を通して、異学年での交流や身近な地域、社会とつながる活動を紹介することで、人との触れ合いや共生を通して造形表現を深めていくことができるよう工夫されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・各巻の「広がる図工」 ・各巻裏表紙の「つながる図工」
	写真やイラストにおいて、外国籍の児童など多様な児童がともに学び合う姿や、幼児、高齢者、障がいのある方など、多様な人々と関わる姿が掲載されている。作品の掲載においては、作家作品、伝統工芸、アール・ブリュットの作品などが取り上げられ、教科書全体を通して多様性を尊重しながら学ぶことができるよう工夫されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・全教材を通して ・障がいやアール・ブリュットと関連があるページ <ul style="list-style-type: none"> 5・6上 p.28-29 「ふれて伝えるストーリー」 p.37 「どんなことをどんな方法で」 5・6下 p.37 「水の流れ 水の形」 p.57 「材料と用具のひきだし」、裏表紙 「つながる図工」やまなみ工房
	人物のイラストでは、服装や髪型に十分留意し、ジェンダーに関するステレオタイプな表現や偏りがないように配慮されている。	全教材を通して
	著作権について取り上げることで、作品一つひとつに作者の思いが込められていることを伝えるとともに、作者のもつ権利や人権を尊重する気持ちをもつことができるよう配慮されている。	5・6上 p.65 「タブレットたん末を活用する」
	特別支援教育の専門家である大内進先生（星美学園短期大学日伊総合研究所客員研究員）による、全面的な校閲のもと編集されている。	全教材を通して
防災・安全	防災研究の専門家である河田恵昭先生（関西大学社会安全研究センター長・特別任命教授）による全面的な校閲のもと編集されている。	全教材を通して
	防災・安全について、防災看板のピクトグラムや、震災からの復興を願った展示の様子などが掲載され、防災への考えを深められるよう配慮されている。	3・4上 p.53 「みんなとつながる」神戸っ子アートフェスティバル 5・6上 p.37 「どんなことをどんな方法で」 浸水深サイン（どうぶつものさし） 5・6上 裏表紙 「つながる図工」 ひきさい者をはげます プロジェクションマッピング
	題材ページ及び「材料と用具のひきだし」の「 気をつけよう 」において、用具の安全な使い方や、活動場所の安全を確認することなどを示し、安全に配慮する態度を養うことができるよう工夫されている。	全題材を通して

伝統文化	<p>題材ページや特設ページで、伝統的な遊びや玩具、伝統工芸、伝統美術・文化などについて取り上げられており、日本の伝統文化のよさや美しさに気付くとともに、受け継いでいこうとする気持ちを育てられるよう配慮されている。</p>
------	---

国際理解教育への配慮	<p>諸外国の児童の作品や作家の作品、建築物などを取り上げ、それぞれの国による表現方法や風土の違い、共通点を理解し学ぶ中で、国際理解の大切さや平和の発展に寄与する態度が身に付くように工夫されている。</p>
------------	---

1・2上 p.37「わくわくおはなしすごろく」
 1・2下 裏表紙「つながるすこく」
 3・4下 p.25「体でかんしょう」風神雷神図屏風
 3・4下 p.61「ねん土と人のくらし」
 5・6上 p.60「日本と西洋の伝統的な絵の具」
 5・6下 p.18-19「墨と水から広がる世界」
 5・6下 p.29「使って楽しい焼き物」教科書美術館ミニ
 5・6下 p.31「生活を豊かにする形」火焰型土器
 5・6下 p.38・41「受けつがれてきた形」
 5・6下 p.39-40「もようから見つけて」
 5・6下 p.47「版で広がるわたしの思い」教科書美術館ミニ
 5・6下 p.59「和紙ってすごい！」

・「外国の友だちの絵」
 1・2上 p.24-25「せんせいあのね」
 1・2下 p.26-27「こんなことあったよ」
 3・4上 p.20-21「あの日あの時の気持ち」
 3・4下 p.18-19「わすれられない気持ち」
 5・6上 p.24-25「あの時あの場所わたしの思い」
 5・6下 p.26-27「わたしの大切な風景」
 ・諸外国の作家作品・建築物
 各巻の「教科書美術館」
 各巻の「教科書美術館ミニ」(3・4下 p.51、5・6上 p.11、5・6下 p.9、p.13、p.45)
 3・4上 p.48-49「絵を見て話そう」
 5・6下 p.24-25「この筆あと、どんな空？」
 ※本書 p.51 も合わせて参照

6. 構成・配列

教科書検討の観点	教科書の特徴	関連する教科書のページ
題材の系統性への配慮	<p>低・中・高学年の児童たちの発達について、授業の取材や全国各地の実践報告をもとに研究し、発達の段階に応じて学びを深められるよう、系統性に配慮して配列されている。</p> <p>題材の分類は、「造形遊びをする」「絵に表す」「立体に表す」「工作に表す」「鑑賞する」活動の5つの分野で構成され、それぞれの分野の中で、児童の発達に十分配慮した材料や用具が取り扱われている。</p>	全教材を通して
内容の配列や学年の順序性の工夫	<p>各巻とも、1年の流れに沿って、行事や季節に応じて題材を選択できるよう配列されている。</p> <p>材料・用具の取り扱いについて、例えばクレヨンについては1・2上で基本的な使い方、1・2下で応用的な使い方を紹介するなど、学年の順序性が十分に留意されている。</p> <p>学習指導要領において「内容」を2学年まとめて示していることを受け、低・中・高学年でテーマが設定されている。低学年では「まるごと たのしもう」として、心と体を十分に動かして全身で楽しんだり味わったりする姿が示されている。中学年では「ためす見付ける」として、試行錯誤する中で自分の表したいことを見付けていく姿を示している。高学年では「わたしとひびき合う」として、自分の内面を見つめたり、他者の感じ方や見方に触れて互いに影響し合いながらつくりだす姿が示されている。</p>	全教材を通して
地域性への配慮	<p>全国各地の地域で行われている造形を通した活動の事例や、地域の美術館、地域の作家作品等が偏りなく掲載されており、児童が自分の地域と結び付けて学習することができる。</p>	全国各地域の掲載事例については、本書 p.50-51 を参照
	地域や学校の実態、児童の状況に合わせて題材を選択できるよう、豊富な題材が掲載されている。	全教材を通して

7. 正確性及び表記・表現

教科書検討の観点	教科書の特徴	関連する教科書のページ
ユニバーサルデザインへの配慮	<p>色覚特性の有無にかかわらず、全ての児童が等しく学べるよう、コントラストや文字の背景色など、カラーユニバーサルデザインに配慮して編集されている。題材名は見やすく、かつ楽しく取り組めるようデザインされている。また、学年に合わせて文字の大きさが調整されている。</p>	全教材を通して
	特別支援教育の専門家である大内進先生（星美学園短期大学日伊総合研究所客員研究員）による、全面的な校閲のもと編集されている。	全教材を通して
文章表現は適切か	<p>題材名や導入の言葉は、各学年の発達の段階を考慮し、児童の興味や関心を引き出すとともに、イメージを広げることができるよう工夫されている。</p>	全教材を通して
	題材ページの作品コメントやふきだしでは、活動や作品に関して児童がイメージしたことや発想・構想したことが児童の実際の言葉で示されており、児童にとって分かりやすい表現になっている。	全教材を通して

図版・写真などは学習内容と関連付けられているか	<p>題材ページでは、資質・能力の三つの柱に基づく「学習のめあて」に対応している情景写真が掲載されている。また、造形遊びにおける周囲の様子が読み取れるような写真、活動途中や終末での相互鑑賞・プレゼンテーションの様子も掲載されている。作品図版においても、児童の発想や構想、工夫が読み取りやすいよう、一部を拡大して掲載するなど、活動の際の参考になるよう工夫されている。</p>	全教材を通して
-------------------------	--	---------

レイアウトは適切か	<p>作品が大きく掲載されていることはもちろん、活動の情景が多く掲載され、活動の入口から出口まで、全ての場面が等しく学びであることを示すようなレイアウトになっている。また、大小のメリハリをつけることで紙面に動きをもたせ、児童が興味・関心をもつことのできる構成になるよう工夫されている。</p>	全教材を通して
-----------	--	---------

つくる過程や図解は明確であるか	<p>高学年の題材では、活動の大まかな流れが数字とともに示されており、活動の過程が分かりやすいよう工夫されている。</p>	<p>5・6上 p.8-11「心のもよう」、p.38-39「笑顔が生まれるしかけ」 5・6下 p.10-13「音の絵」、p.16-17「固まった形から」、p.28-29「使って楽しい焼き物」、p.39-40「もようから見つけて」</p>
-----------------	---	---

仕組みのつくり方などは図示することで分かりやすく、児童が主体的に活動できるように示されている。また、材料や用具の取り扱いについては巻末にまとめられ、いつでも参照できるよう工夫されている。

8. 造本

教科書検討の観点	教科書の特徴	関連する教科書のページ
大きさ・判型への配慮	A4判で、作品や写真を見やすく、インパクトをもたせて掲載し、児童の興味・関心を引き出す工夫がされている。	全巻を通して
印刷の鮮明さ	児童作品、美術作品の色合いや材質感などの忠実な再現に努められている。用紙は良質コート紙が使用され、発色が鮮やかに印刷されている。	全巻を通して
製本の堅牢さ	製本は、ページ数の多い書籍に適した無線綴じが採用され、紙がバラバラにならず、強度がある製本になっている。また、巻頭・巻末に見返しを付けることで耐久性が増すよう工夫されている。	全巻を通して
装丁の工夫	表紙は美しい光沢と耐水性のあるコーティングが施され、丈夫で水濡れに対しても耐久性がある。また、表紙は細部が見えるよう児童作品を拡大して掲載している。一方で裏表紙には、作品の全図と作品コメントが掲載され、作品に込められた思いや意図が分かるよう工夫されている。	各巻の表紙・裏表紙
使いやすさへの配慮	<p>高学年では、4ページ題材が設けられ、活動の過程や発想のヒントなどを丁寧に示すとともに、多様な作品を掲載している。</p> <p>各巻の「教科書美術館」は、関連が深い題材ページと連続して配置されており、関連付けて活用できるよう構成が工夫されている。</p>	<p>・高学年の4ページ題材 5・6上 p.8-11「心のもよう」 5・6下 p.10-13「音の絵」、p.42-45「自然を感じるすてきな場所で」</p>
	5・6上巻末には「ミニ・アートカード」が付属しており、カードを使ってゲームを楽しみながら、児童が美術作品などに親しみを持ち、能動的な鑑賞活動を促すことができるよう工夫されている。	5・6上 巻末「ミニ・アートカード」
安全・健康への配慮	植物性インクが使用されているため、従来の印刷に比べ人体への影響が少ない。また、化学物質に過敏な児童のために表紙の表面加工が工夫され、化学物質の残存量を少なくするための努力が行われている。	全巻を通して
環境への配慮	資源保護に配慮され、表紙・本文ともに再生紙が使用されている。印刷においては、植物性インクが使用されている。	全巻を通して
軽量化への取り組み	児童の重さへの負担をできるだけ軽減するため、軽量化した再生紙の中で最適の良質コート紙が使用されている。	全巻を通して
	従来の教科書より薄い紙を採用することで、軽量化に取り組んでいる。その際、薄い紙であっても裏写りなどが発生しない良質なコート紙を使用している。	全巻を通して